

政府の生活無策を追及！！

(2008.4.22)

4月16日、参議院本会議で、私、辻泰弘は、福田総理大臣に対し、内閣発足以来6ヶ月半にわたる生活無策を追及。本会議登壇は2年ぶり。選挙で鍛えた持ち前の大声で迫力満点。福田総理と与党を圧倒。

辻泰弘君 私は、…総理並びに関係各大臣に御質問申し上げます。

福田内閣発足から6か月半が経過致しました。昨年9月、総理が署名をされた連立政権合意においては、改革を急ぐ余り、取り残された人たちや地域、弱者に対するセーフティーネットが十分でなかったことを率直に反省し、負担増、格差の緩和など国民生活に重きを置いた方向の政策を断行すると約束されておりました。しかし、実際はどうだったのでしょうか。

小泉内閣以来の競争、効率、自己責任の冷たい論理に貫かれた政策運営は、福田政権の下でも全く変更されず、むしろずさんな年金行政による不信と不安の拡大、高齢者、年金生活者に冷たい医療保険制度の強行、医師不足に対する無策、無年金者や日雇派遣の放置などにより、国民生活は苦況に陥るばかりであります。医療難民、ネットカフェ難民など、難民と形容される社会状況も多くなっております。

総理は、就任以来今日まで、当初公約されたセーフティーネットの整備のために何をしてくられたのでしょうか。負担増や格差の緩和のためにいかなる政策を講じられたのでしょうか。お伺いを致します。

同時に、4月からの後期高齢者医療制度について、年金からの強制的な天引き、開始直後の名称変更、事務的な準備不足などを国民に対しどう説明されるのでしょうか。抜本的な制度の見直しが必要ではありませんか。医師不足への対応と併せて、総理の御見解を求めます。…(中略)…

昨今、空気を読めない孤独の首相の判断が迷走劇に拍車を掛けたなどのマスコミの分析が説得力を持って心に響く今日このごろでございます。一人で勝手に空回りしておきながら、他人に翻弄されたなどと言われても、甚だ筋違い。そんな愚痴をこぼす総理を持った国民の方が困ってしまうんですよ。

4月に入ってから世論調査では、福田内閣の支持率は20%台に下落し、政権が危険水域に達したと言われております。もはや、庶民の心なき、生活、暮らしに思いなき、政策ビジョンなき福田政権に国民生活を、日本の将来を託すわけには参りません。

貧乏くじを引いて、かわいそうなくらいに苦勞しておられる総理にこれ以上の御苦勞をお掛けするのは、誠に、誠に忍びないのであります。

政治とは人間の幸せの追求であります。私どもは、政治は生活、生活第一の政治を実現すべく、速やかな政権交代を目指して、全身全霊を傾けて闘う決意を申し上げ、質問を終わります。